

紀元節 建国記念の日 二月十一日

第一代神武天皇が橿原宮において即位された年を元年とし、日本の紀元の始まる日（神武天皇即位の日）を紀元節と名づけた。

明治五年太政官布告をもって、一月二十九日を紀元節の祝日と定めた。改暦の結果二月十一日をこれにあて、宮中皇靈殿にて天皇親祭の祭儀となった。大正三年以来、全国の神社で紀元節祭を行うこととなり、民間では建国祭と称して祭典が挙行されていた。

昭和二十三年占領軍の意向として紀元節は廃止されたが、復活の聲が高まり、昭和四十一年十二月九日建国記念の日制定の政令が公布され、翌年二月十一日建国記念日式典が行われた。

国民の祝日に関する法律（祝日法）第二条「建国記念の日」

「建国をしのび、国を愛する心を養う。」

平成三十一年は、紀元（皇紀）二六七八年 西暦（キリスト紀元）二〇一八年

※「日本書紀」 卷第三 神武紀 「辛酉年春正月 庚辰朔 天皇即帝於橿原宮」
神武の御創業に基づき国を整えてこそ、世界の平和に貢献することができるとしよう。

紀元祭 午前九時斎行 参列自由